

行事報告

広域アジアものづくり技術・人材高度化拠点形成事業—CIS 活動報告(ベトナム)

広域アジアものづくり技術・人材高度化拠点形成事業運営委員会 委員 菅哲男
接合科学研究所 客員教授

本年度のベトナム CIS(カップリングインターンシップ)を、9月13日-26日の期間にベトナム(ハノイ、ハイフォン)で開催しました。大阪大学 外国語学部2名、工学研究科2名、ハノイ工科大学(HUST)情報工学部2名、工学部2名の計8名の学生が参加しました。現地で2日間の事前研修(HUST、ハノイ)を行い、企業の経営理念やコミュニケーションの講義(講師:言語文化研究科の横江特任教授と清水准教授)、溶接基礎知識の教育(VTR)、CIS課題の実習を学生は受講しました。16日からの休日を除く5日間は、ハイフォンにある IIA [IHI INFRASTRUCTURE ASIA] (橋梁会社、IHI の子会社)で企業実習を実施しました。実習としては、会社説明(方針、組織、業務内容)、生産工程の説明、安全と品質の講習などを受けると共に、実習(CNC穴明けとマグ溶接)と橋梁の外注会社(ナムロン社)の工場見学

を行いました。また、IHI が建設した「ニャットン橋、ビン橋」に行き、ものづくりの最終製品も見学しました。実習テーマ「コミュニケーションの課題と対策」について、企業の経営者やスタッフとのインタビューなども踏まえて、学生は一生懸命に取り組みました。最終日の25日にはHUST(ハノイ)で、学生はCISの実習テーマの検討結果について報告しました。最終報告会には、IIAの山本社長、HUSTのハイン接合科学部門長、阪大の横江特任教授、清水准教授、菅客員教授ら計16名の参加があり、活発な質疑応答がありました。企業からは、「大変参考になった」との講評もいただきました。学生は、今回のCISを通して「日系現地企業のものづくり現場」を体験すると共に、異文化・多言語環境下でのコミュニケーション力や協調性の重要性などを学んでおり、大変有意義な活動でした。

